

## きめ細かな指導のために

予算 13億6,475万円

### ぐんま少人数クラスプロジェクトを継続します

	対象	学級人数
小学校	1・2年生	30人以下の学級
	3・4年生	35人以下の学級
	5・6年生	40人以下の学級
中学校	1年生	35人以下の学級
	2・3年生	40人以下の学級

さくらプラン

わかばプラン

#### 「ぐんま方式」の学級編制



子どもたちの成長段階に合わせた少人数学級編制（さくらプラン・わかばプラン）を継続して行います。

学級の人数を少なくすることで、担任の目が子どもたち一人一人に良く行き届き、学習のつまずきのある子や学校生活で困ったことのある子への指導が充実します。

また、全学年で、特につまずきやすい算数・数学で習熟度に応じた少人数指導をするなど、子どもたちの基礎学力の定着に取り組んでいます。

### コラム 少ない、長期欠席者と暴力行為（全国比較）

文部科学省が行った平成27年度の調査によると、県内の小中学校に通う子どもたちの長期欠席者の割合や暴力行為の発生件数は全国平均よりも少なくなっています。

県では、子どもたちが明るく元気に通える学校を目指して、これからもさまざまな取り組みを行っていきます。

#### ① 長期欠席者の割合

	群馬県	全国
小学校	0.66%	0.97%
中学校	3.09%	3.94%

※長期欠席者の割合＝総数／児童・生徒数  
※長期欠席者とは年間で30日以上欠席した者

#### ② 暴力行為の発生件数

	群馬県	全国
小学校	0.5人	2.6人
中学校	1.4人	10.0人

※児童・生徒1000人あたりの発生件数

出典：平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果

## 英語教育強化のために

予算 5,150万円

### 英語教育アドバイザー教員を配置します

#### 平成32年度から「英語」が教科化されます

平成32年度から、新しい学習指導要領に基づき全ての小学校で3年生から英語教育が始まります。

5・6年生では、国語や算数と同じように英語が教科として位置づけられます。

	現在	平成32年度～
3・4年生	実施なし	外国語活動
5・6年生	外国語活動	「英語」の教科化

小学校での英語教育をより充実したものとするには、教員の英語指導力の向上が必要です。そのため、県では全国に先駆けて、今年度から英語教育アドバイザー教員（EAT）を県内に10名配置します。

EATは、各地域の配置校で県全体のモデルとなる授業を日常的に公開したり、他の教員の英語の授業づくりをサポートしたりします。

県では、これまで新学習指導要領に対応するため、さまざまな教材の作成や授業内容を研究してきました。それらを実際に

使った授業をEATが公開し、英語指導に不安のある教員がいれば一緒に授業をするなど、優れた授業を県全体に広げて、小学校の英語指導の水準を上げ、子どもたちの英語力向上につなげます。

#### ●英語教育アドバイザー（EAT）の役割●



#### ①モデルとなる授業の実践

- ・配置された学校で授業実践
- ・モデルとなる授業の公開

教える



#### ②他の教員へのサポート

- ・配置校以外に出向いて、他の教員の授業への指導・助言
- ・他の教員と一緒に授業実践

育てる



#### ③地域の研修会での指導

- ・市町村等での研修会の講師
- ・県の教員向け研修での講師

広げる